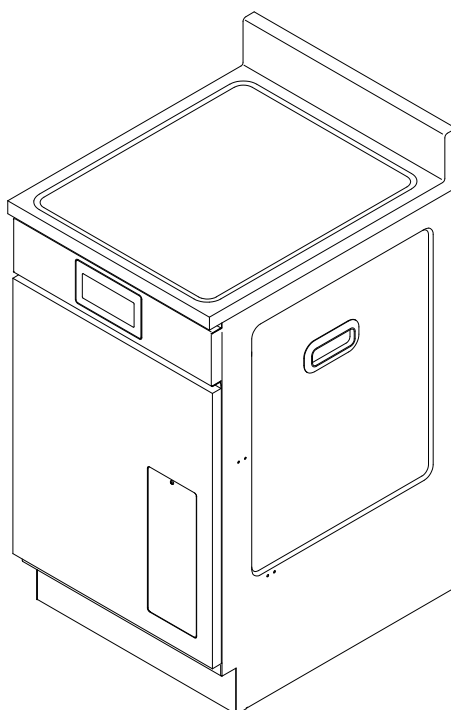
工事要領、取扱説明書

製品名：調理台型給湯ユニット

型　式：ES-50,80DWUB-LC（5）

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書を事前によくお読みになり、理解した上で設置、ご使用ください。
設置工事（試運転）後は、必ず本書をご使用になる方にお渡しください。
本書は、いつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。
（この工事要領、取扱説明書に記載されている事項を守らずに発生した事故について、弊社は一切責任を負いません。）

株式会社日本イトミック

〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 イトミックビル
TEL:03（3621）2121（大代表）　FAX:03（3621）2130
フロント課（修理依頼承り先）
TEL:03（3621）2161（代表）　FAX:03（3621）2163

もくじ

共通項目

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、お守りいただく事項を記載しています。設置の前に、必ず本書をお読みになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方にお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。

⚠**警告**	この表示の欄は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠**注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

△の記号は、注意する必要のある事項を示しています。
△の中に具体的な注意内容が描かれています。
（左図の場合は高温注意を意味します。）

⃠の記号は、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
⃠の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
（左図の場合は分解禁止を意味します。）

●の記号は、しなければならない行為（強制行為）を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜くこと、という指示です。）

重要事項：必ずお守りください

⚠警告	
	アース（D 種接地）工事を確認してください。 アース工事がされないと機器の故障や漏電発生時に感電するおそれがあります。
	電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、必ず動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電発生時に感電するおそれがあります。
	電圧は定格電圧の± 10%以内でお使いください。 火災の原因となります。
	本体内部を点検する場合には、必ず電源を切ってください。 感電のおそれがあります。
	湿気の多い場所や浴室には、製品を設置しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると、故障や感電の原因となります。
	屋外に設置しないでください。 感電、故障の原因となります。
	設置時および点検時、リセット操作時以外は、前扉、天板、逃し弁点検口を開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	絶対に改造はしないでください。 火災、感電、やけど、漏水やケガの原因となります。

⚠警告

	逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	排水時には熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	濡れた手で操作しないでください。 感電のおそれがあります。

⚠注意

	床面に防水、排水処置を施してください。 漏水が起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。
	給湯器の満水質量に十分耐えられる強度を持った床面および壁面にアンカーボルト等を使用して必ず水平に設置してください。 機器の転倒などによる、ケガや故障のおそれがあります。
	給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。 漏水の原因となります。
	満水にしてから通電してください。 故障の原因となります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤作動、故障の原因となります。
	定期的に逃し弁の動作確認を行ってください。 万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。
	水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。 タンクや配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。
	長期間使用しない場合は、タンクの水を抜いてください。 凍結してタンクが破損したり、水質が悪化するおそれがあります。
	水抜口および逃し管は、排水管に直接つながないで間接排水としてください。 汚水が逆流した場合、タンク内が不衛生な状態になり健康を害するおそれがあります。
	定期的にタンク内部を清掃してください。 水質が変化して、健康を害するおそれがあります。
	貯湯温度が 80℃未満の場合は、やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	点検する際は、十分にお湯を冷ましてから点検を行ってください。 やけどのおそれがあります。

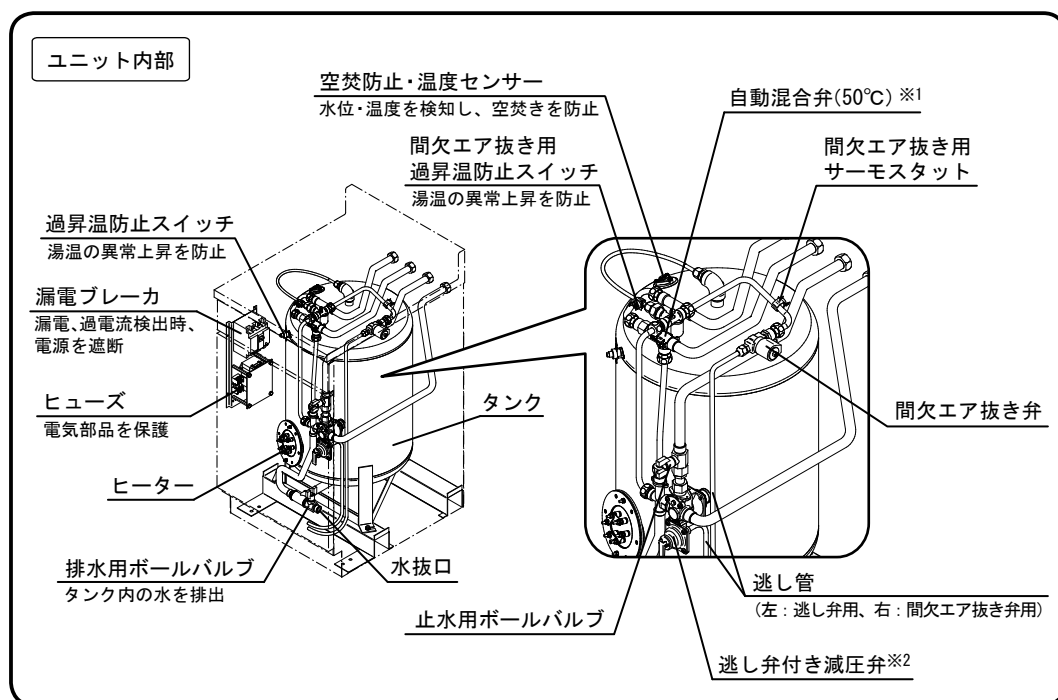
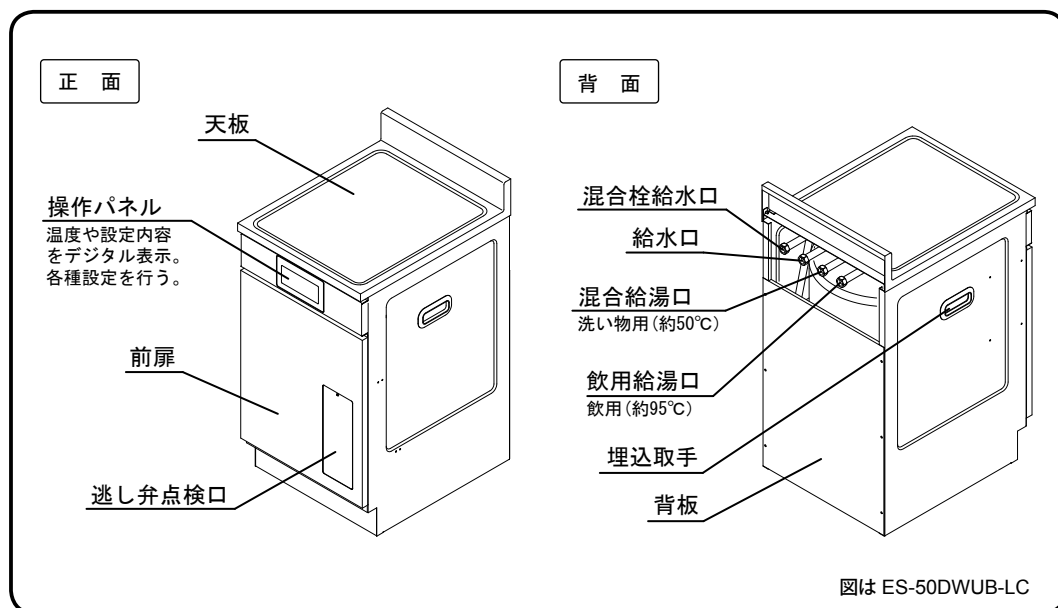
安全上のご注意

⚠注意	
⃠	**本体より低い場所への給湯、および給湯加圧ポンプのご使用はやめてください。** タンクや配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。
	逃し管の先をふさがないでください。 タンクや配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。
	タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。 配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。
	給湯器本体に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、破損の原因となります。
	水道水以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
	水道水に添加物を混ぜないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。

ES-DWUB シリーズについて

本シリーズは、飲用と洗い物用の給湯器２台分の機能が一台にまとまった、調理台付きの「調理台型給湯ユニット」です。

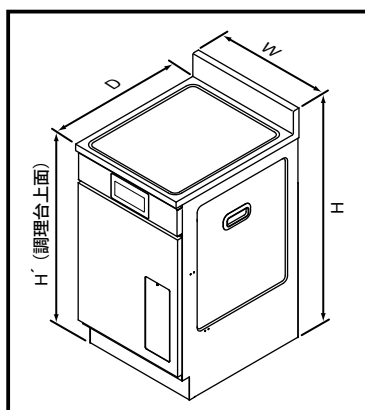
運転や湯温などのコントロールは、マイコンを搭載した操作パネルを使って簡単に行うことができます。操作パネルには、現在温度や設定内容が表示され、故障診断機能やタイマー機能が備わっています。

各部名称と機能

※１・・・熱湯と水を混合し、洗い物用に湯温を約 50℃に調整します。

※２・・・タンク内の圧力を97kPa 以下に保持します。（テストレバー付き）沸き上げ中は、逃し管から膨張水を排出します。

仕様一覧

項目＼型番		ES-50DWUB-LC		ES-80DWUB-LC	
定格	電　圧	単相 200V			
	消費電力	3.1kW			
貯湯量		50㍑		80㍑	
沸き上がり温度		約 40 ～ 95℃			
給湯方式		先止式			
給水圧力		0.1 ～ 0.5MPa			
最高使用圧力		0.1MPa 以下			
給水､給湯接続口径		G1/2（15A）, メネジ（袋ナット）			
水抜接続口径		G1/2（15A）, オネジ			
使用水温		0（但し凍結のないこと）～ 40℃			
雰囲気温度		0（但し凍結のないこと）～ 40℃			
湿度		10 ～ 60%（但し結露のないこと）			
据付方式		床置式			
据付寸法（mm）W × D × H		H′ = 800	H′ = 850	H′ = 800	H′ = 850
		450 × 550 × 890	450 × 550 × 940	600 × 550 × 890	600 × 550 × 940
本体質量		38kg		43kg	
満水質量		約 88kg		約 123kg	
主要部品	ヒーター	シーズヒーター（SUS316L）			
	減圧弁	設定圧力 80kPa			
	逃し弁	設定圧力 97kPa			
	間欠エア抜き弁	定時開放			
	自動混合弁	設定温度　約 50℃			
安全装置	漏電検出装置	漏電ブレーカ（30mA、0.1 秒）			
	空焚・過昇温検出	バイメタル式			
	温度センサー異常検出	電子制御式			
	間欠エア抜き弁異常検出	バイメタル式			
設置場所		屋内			

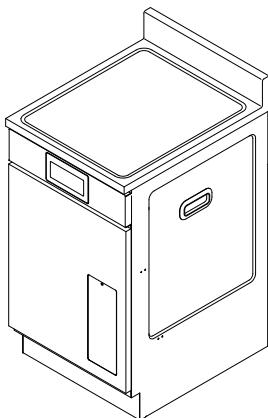
※沸き上がり時間の目安はP.28を参照してください。

工事要領

正しく取り付けるため、必ずこの手順に沿って施工してください。

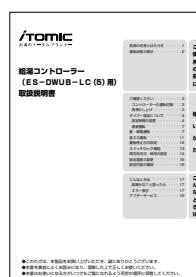
施工前にご確認ください

1. 製品の確認

【本体および付属品】

ES-DWUB本体

各型番の違いはP.7参照→

付属品

工事要領、取扱説明書×1
（この冊子です。当冊子は工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。）

給湯コントローラー
取扱説明書×1
（工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。）

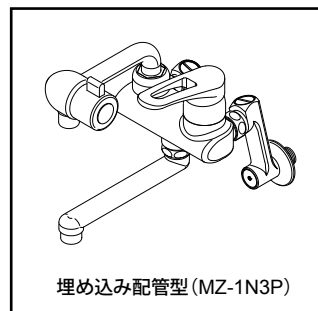
【お客様にてご手配ください】

お客様手配品（必ず事前にご用意ください。）

①熱湯栓、混合水栓　・・・出湯するために熱湯専用水栓と混合水栓がそれぞれ必要です。
②止水栓　・・・・・・・・・水抜きやメンテナンス時に給水を止めるため必要です。
③漏電ブレーカ　・・・・・万一の故障や漏電した際の事故を防止します。（30mA、0.1秒）
④水抜用配管・・・・・・・水抜きするときに必要です。
⑤排水受け　・・・・・・・・膨張水排水処理をするときなどに必要です。
⑥アンカーボルト　・・・・温水器を固定するために必要です。

上記は必ずお客様にてご用意ください。

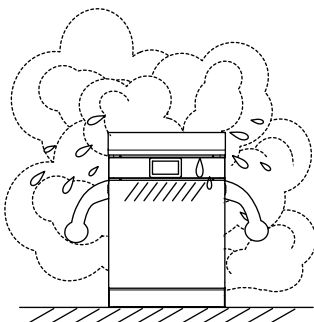
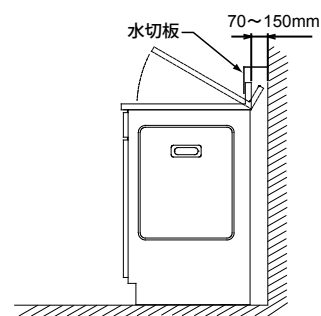
関連商品（弊社にてお求めいただけます。）

⑦まぜまぜP　・・・・・・ES-DWシリーズ専用の、ワンレバーで簡単に水とお湯を混合できる熱湯口付き混合水栓です。埋め込み配管型（MZ-1N3P）と立ち上がり配管型（MZ-3N3P）があります。
⑧熱湯栓、混合水栓　・・熱湯専用に設計された熱湯栓（NT-1）と、混合水栓（KG-2）があります。

埋め込み配管型（MZ-1N3P）

2. 設置場所の確認

チェックリスト

項　目	チェック内容	チェック
凍結対策	冬季にも凍結しない場所ですか？ 冬季に凍結する場所では、給湯以外の配管に保温工事が必要になります。	□
メンテナンススペース	水切板を取り付ける場合、天板を取り外せるようにしてください。 天板が取り外せないと、修理やメンテナンスの際に交換することができません。	□
設置場所	機器の設置場所は雨水のかからない場所ですか？ 雨水が機器内部へ浸入すると、感電したり機器が故障する原因になるため非常に危険です。本体は必ず屋内へ設置してください。	□
	設置場所は湿気の多い所(特に浴室内)ではありませんか？ 結露が生じる場所で使用すると感電するおそれがあります。また、湿気は電気部品が早期に故障する原因にもなります。	□
取付床面	水平な床面ですか？ 水平でない場合はお取り付けいただくことができません。	□
	満水質量に耐えられる床面ですか？ 強度が不十分な場合は補強を行うなどの対策が必要です。	□
電源の有無	電源が引き込める位置にありますか？ ない場合は取り付けや増設が必要です。	□
給水圧力	給水圧力は0.1 ～ 0.5MPaの間になっていますか？ 給湯器が正しく作動しませんので、必ず上記範囲内の給水圧力があることを確認してください。	□

設置場所は屋内の湿気の少ない場所を選んでください。

水切板を取り付ける場合は、天板を上方向に取り外せるよう、本体と壁の間をあけてください。

ES-DWUBシリーズの離隔距離

この給湯器は「消防法設置基準」に基づく試験基準に適合しております。建築物の可燃物等からの離隔距離は、表に掲げる値以上の距離を保ってください。

注) 水切板を取り付ける場合は、天板を上方向に取り外せるよう、本体と壁の間を70 ～ 150mmあけてください。

消防法 基準適合 組込形

場所	離隔距離(cm)
上方	0
左方	0
右方	0
前方	0
後方	0
下方	0

施工する

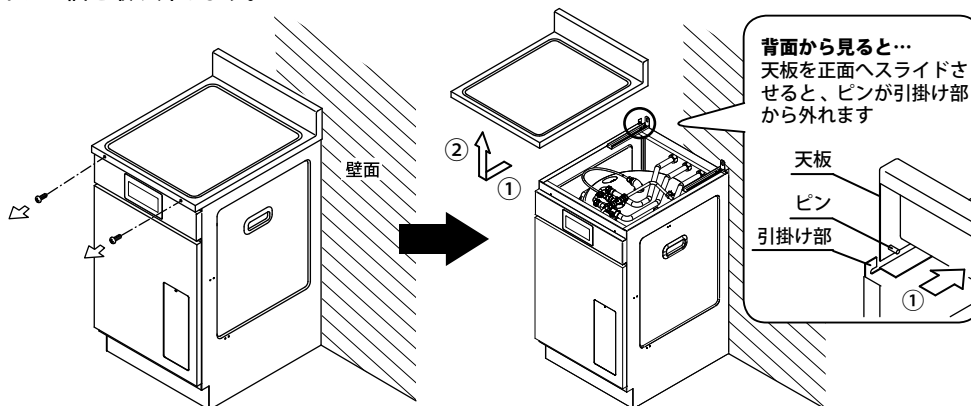
1. 設置工事

⚠警告	
	屋外に設置しないでください。 感電、故障の原因となります。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	湿気の多い場所や浴室には、製品を設置しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると､故障､感電の原因となります。

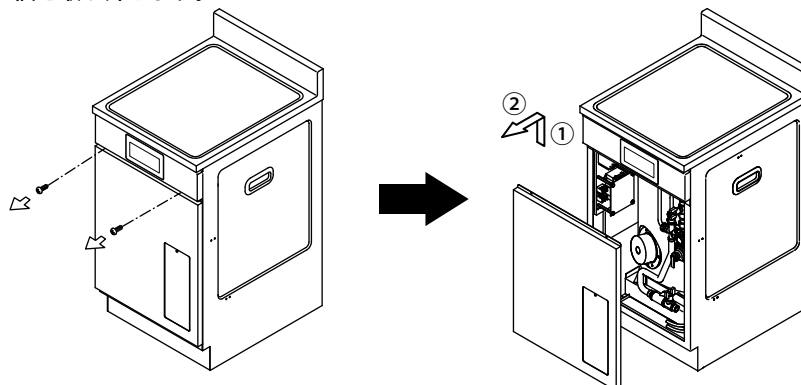
⚠注意	
	給湯器の満水質量に十分耐えられる強度を持った床面および壁面にアンカーボルト等を使用して必ず水平に設置してください。 機器の転倒などによる、ケガや故障のおそれがあります。
	床面に防水、排水処置を施してください。 漏水が起きた場合､大きな被害につながるおそれがあります。

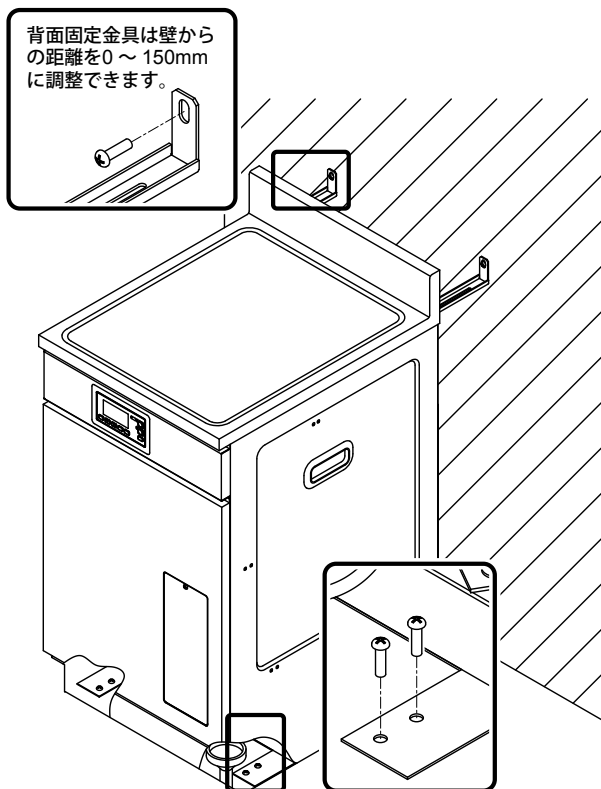
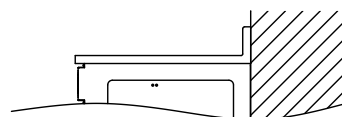
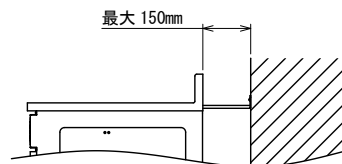
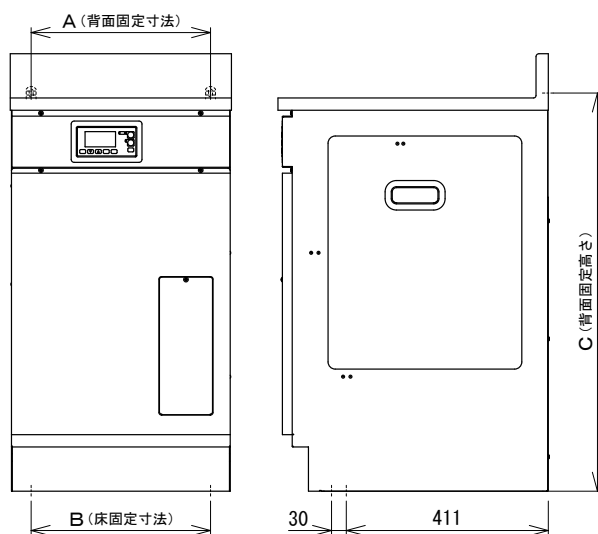
【天板の取り外し方】

天板と操作パネル上部の間にある、固定ネジ２個を取り外します。

①､②の手順で天板を取り外してください。

【前扉の取り外し方】

操作パネル下部と前扉の間にある、固定ネジ２個を取り外します。

①､②の手順で前扉を取り外してください。

【給湯器の固定方法】

背面２箇所、底面４箇所をそれぞれアンカーボルト等（お客様手配品）でしっかりと固定してください。

【給湯器の固定寸法】

型式	A	B	C
ES-50DWUB-LC（H800）	379	365	810
ES-50DWUB-LC（H850）	379	365	860
ES-80DWUB-LC（H800）	529	515	810
ES-80DWUB-LC（H850）	529	515	860

2. 配管工事

⚠注意

規定の給水圧力にてご使用ください。
誤作動、故障の原因となります。

給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。
漏水の原因となります。

水抜口および逃し管は、排水管に直接つながないで間接排水としてください。
汚水が逆流した場合、タンク内が不衛生な状態になり健康を害するおそれがあります。

水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。
タンクや配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。

本体より低い場所への給湯、および給湯加圧ポンプのご使用はやめてください。
タンクや配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。

逃し管の先をふさがないでください。
タンクや配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。

お願い （→ P.13『標準配管図』参照）

配管作業は、天板および前扉を取り外して行って下さい。

本製品は先止め式の給湯器なので、通電中に逃し管より膨張水が排出されます。
逃し管の先は間接排水処理を施し、プラグなどでふさがないでください。

排水口空間は50mm以上とってください。

給水配管の一次側（給湯器に水が供給される側）に止水栓（給水バルブ）を取り付けてください。

止水栓（給水バルブ）は本体に近く操作しやすい位置に取り付けてください。

◆標準配管図

※逃し管からは、沸き上げ中の膨張水および湯水入替時の排水が排出されます。必ず間接排水で処理してください。

【寸　法】　　単位：mm、（　）内は近似値になります。

型　番 ＼ 記　号	H	(A)	(B)	型　番 ＼ 記　号	H	(A)	(B)
ES-50DWUB-LC（H800）	800	410	185	ES-80DWUB-LC（H800）	800	423	185
ES-50DWUB-LC（H850）	850		235	ES-80DWUB-LC（H850）	850		235

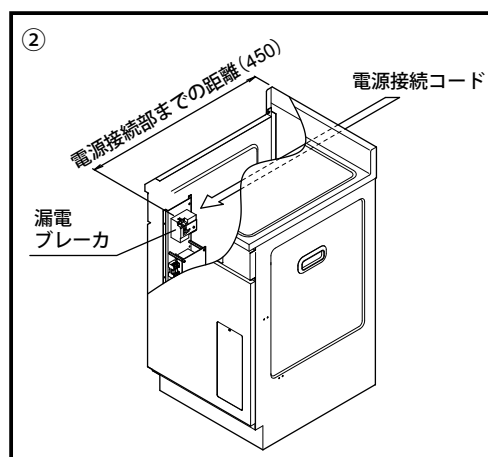
★お客様手配品

3. 電気工事

⚠警告	
	アース（D 種接地）工事を必ず行ってください。 アース工事がされないと機器の故障や漏電発生時に感電するおそれがあります。
	電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、必ず動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電発生時に感電するおそれがあります。
	電圧は定格電圧の± 10%以内でお使いください。 火災の原因となります。

お願い
他の電力負荷が無くなったとき、または夜間に、電圧が高くなることがありますので、電圧は定格電圧の± 10％以内かどうか測定してください。

①電源一次側にお客様手配品の漏電ブレーカを取り付け、D 種接地工事を行ってください。

②電源コードを本体後部より引き込み、本体内部の漏電ブレーカに接続してください。

4. 施工後の確認

次のチェック内容を点検してください。

チェックリスト

項　目	チェック内容	チェック
設置工事	給湯器にがたつきがないこと	☐
	底面および背面はアンカーボルトで固定されていますか？	☐
配管工事	各配管、継手から漏水していないこと	☐
	給水管や給湯管の接続部分にゆるみがないこと	☐
電気工事	外部の漏電ブレーカが正しく作動していること	☐
	D 種接地工事を正しく行っていること	☐
	定格電圧の± 10% 以内であること	☐

試運転を行う

⚠警告

	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	濡れた手で操作しないでください。 感電のおそれがあります。
	給湯中とその直後は配管部分が高温になっていますので、手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。

⚠注意

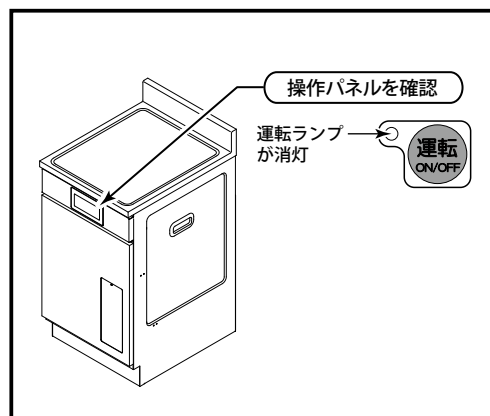
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作、故障の原因となります。
	タンクを満水にしてから通電してください。 故障の原因となります。
	給水温度は規定の範囲内としてください。 故障、漏水の原因となります。
	給湯器本体に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、破損の原因となります。
	水道水以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
	水道水に添加物を混ぜないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。

お願い

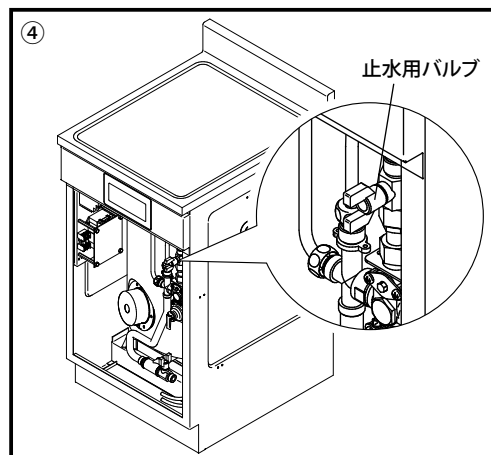
施工後に試運転を行ってください。操作パネルの各部名称や使用方法については、製品に別途付属の取扱説明書をご参照ください。

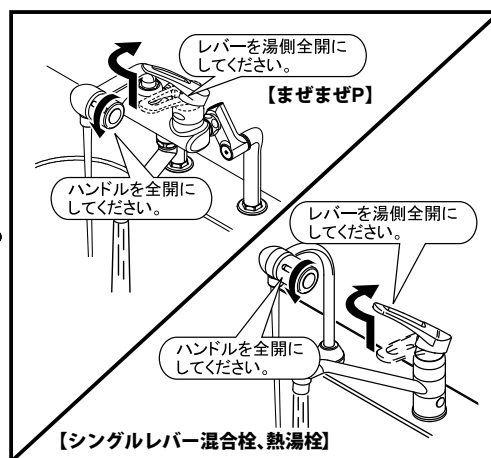
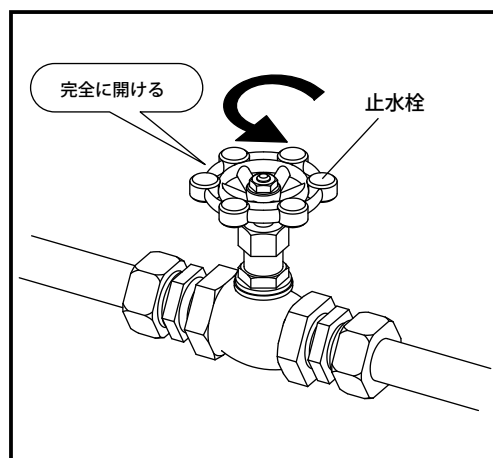
1. 給湯器に給水する

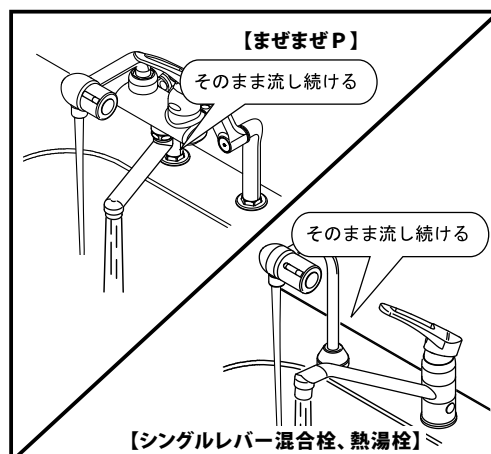
①操作パネルの運転スイッチがOFFになっていることを確認してください。

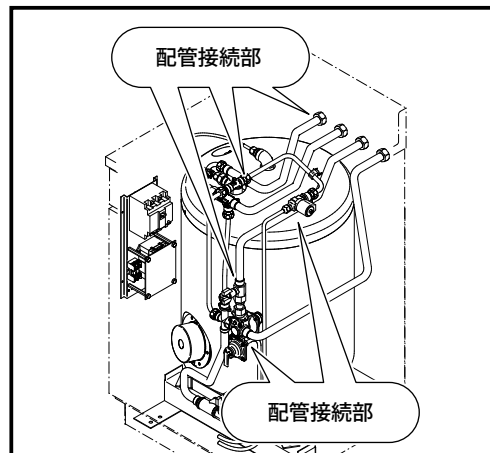
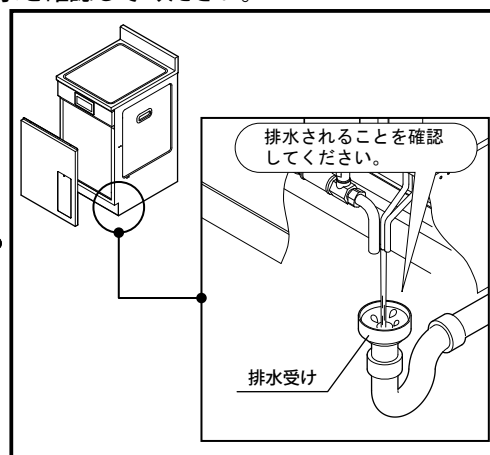
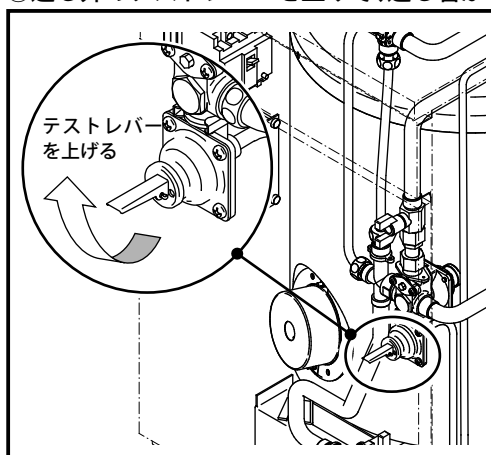
・運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが消灯している状態です。

②調理台の天板を取り外してください。
（→ P.11『天板の取り外し方』参照）

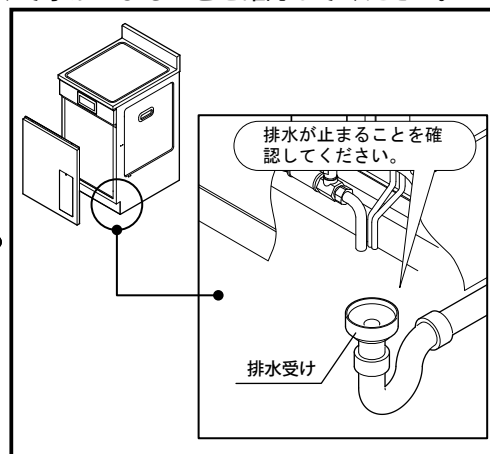
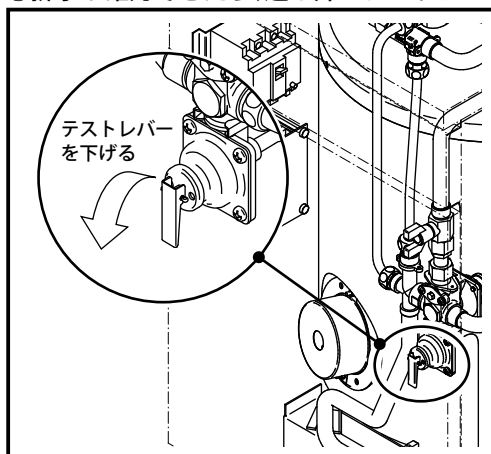
③調理台の前扉を取り外してください。
（→ P.11『前扉の取り外し方』参照）

④止水用バルブが全開になっていることを確認してください。

⑤給水接続配管一次側の止水栓を全開にしてから混合栓、熱湯栓の湯側を全開にし、水の量が安定するまで流し続けます。（給湯器のタンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。）

空気を含まない安定した水が混合水栓から出るまで、給水を続けてください。

注）図の各部品は一例で、お客様が手配されたものにより形状が異なります。図と異なる部品の取り扱いについては、ご購入先やメーカーにお問い合わせになるか、部品の取扱説明書をご覧ください。

⑥タンク内が満水になり、水栓から出る水の量が安定したら、配管内の汚れを流し出すため、そのまましばらく流し続けてください。

試運転を行う

⑦混合栓、熱湯栓を閉めてから、それぞれの配管接続部から水が漏れていないか確認してください。

⑧逃し弁のテストレバーを上げて、逃し管からの排水を確認してください。

⑨排水が確認できたら、逃し弁のテストレバーを下げて水が止まることを確認してください。

お願い

テストレバーは必ず元に戻してください。テストレバーを上げたままにすると、逃し弁から水が排出され続け、設定温度に沸かし上げることができません。

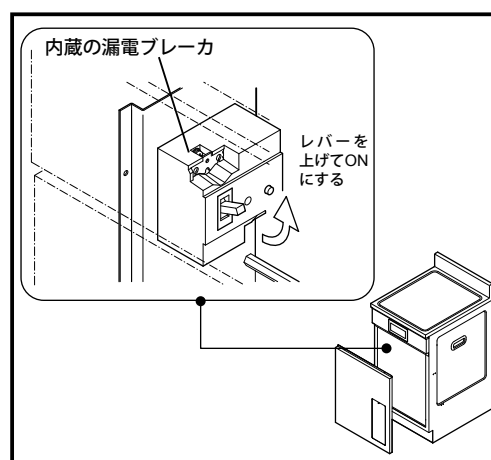
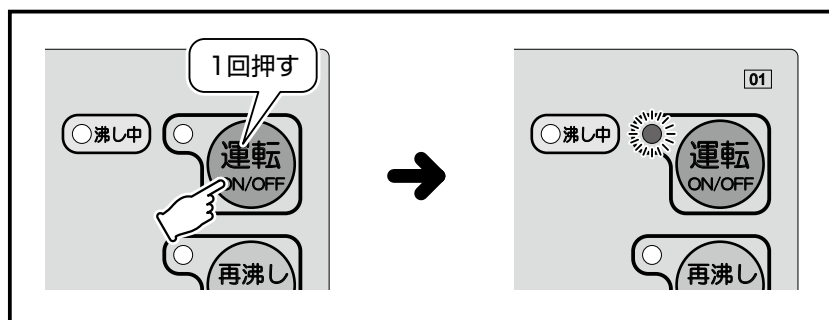
⑩天板と前扉を取り付けてください。

2. 試運転を行う

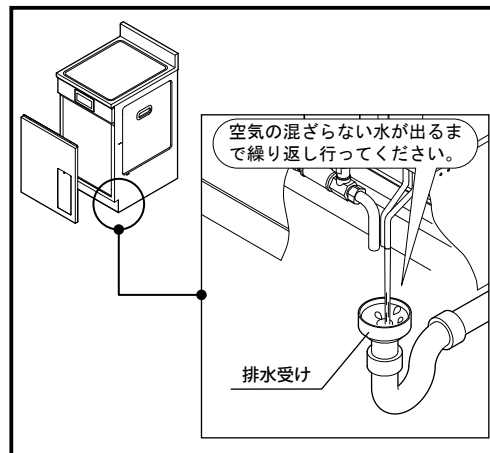
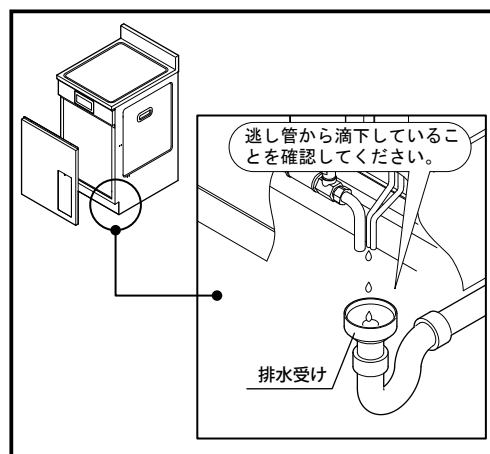
⚠警告

濡れた手で操作しないでください。
感電のおそれがあります。

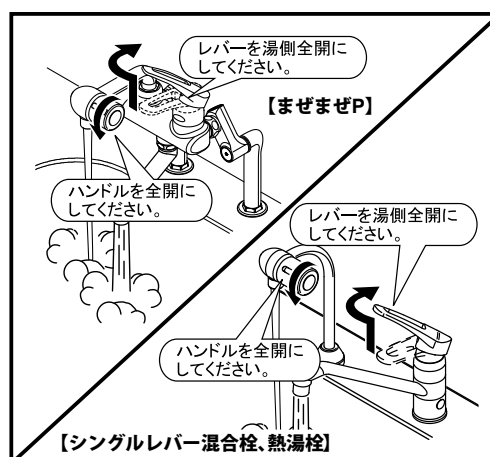
①電源を供給するため、外部に取り付けたお客様手配品の漏電ブレーカをONにしてください。

②調理台の前扉を外して本体内蔵の漏電ブレーカをONにして電源を入れてください。（前扉の外し方→ P.11『前扉の取り外し方』参照。）

③操作パネルの運転スイッチを1回押してください。「ピッ」という操作音とともに自動運転を開始し、運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが点灯します。

試運転を行う

④運転を開始すると、間欠エア抜き弁が1秒間作動し、タンク内に溜まった空気が逃し管より排出されます。

空気を完全に抜くために、運転スイッチを3秒以上押して自動運転をOFFにします。
5秒以上待ってから再び自動運転をONにします。逃し管から空気の混ざらない水が排出され、止まることを確認できるまでこれを繰り返してください。（4 ～ 5回）

⑤沸かし上げ中に、逃し管から水が滴下しているかどうか確認してください。確認出来たら設定温度に沸き上がるまでお待ちください。（沸かし上げ時間→ P.28『沸き上がり時間』参照。）

⑥お湯が沸き上がった後、混合栓、熱湯栓の湯側を開いてお湯が出れば、運転は正常です。確認後は混合栓、熱湯栓を閉め、前扉を取り付けてください。

※**混合湯、熱湯を同時に出す場合はP.28『ワンポイント』をご確認ください。**

確認の際には、熱湯にご注意ください。
やけどのおそれがあります。

3. 試運転後の確認

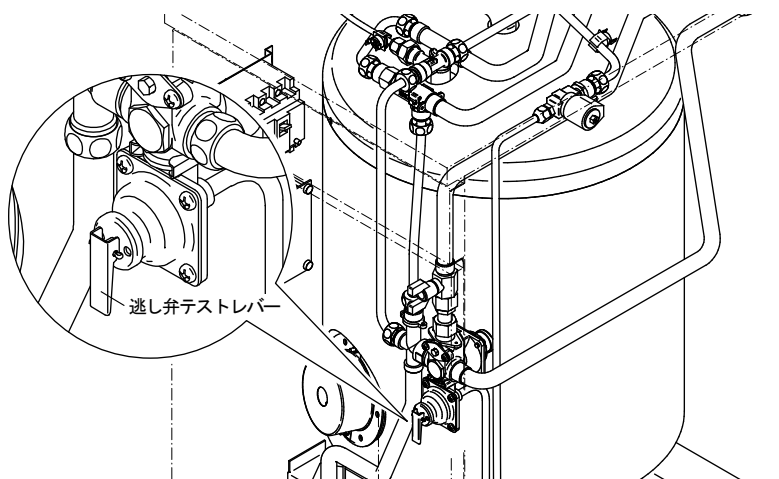
次のチェック内容を点検してください。

チェックリスト

項　目	チェック内容	チェック
漏　水	各配管、継手から漏水していない	☐
電　圧	定格電圧の±10%以内である	☐
ヒーター絶縁抵抗	絶縁抵抗が1MΩ以上ある	☐
ストレーナー	ストレーナーの中にゴミ詰まりがない （ストレーナーは減圧弁に内蔵されています。）	☐
逃し弁	テストレバーが下がっている （P.15『給湯器に給水する』を参照。）	☐
給　湯	混合水栓の湯側を開くとお湯が出る	☐

4. 試運転後に必ず行ってください

以上で、施工および試運転は終了です。
本製品をご使用になられる方、または管理技術者の方に対し、次の事を必ず行ってください。

- **施工作業や試運転について、簡単にご報告ください。**
- **逃し弁のテストレバーが下がっている状態を確認した上で、お客様にその旨をご報告ください。（→ P.24『使用前の準備と確認』を参照。）**

- **お客様が止水栓（給水バルブ）を取り扱う場合がありますので、止水栓（給水バルブ）の取り付け位置をお伝えください。（→ P.24『使用前の準備と確認』を参照。）**
- **本書を含む取扱説明書はすべて、本製品をご使用になられる方、または管理技術者の方にお渡しください。**

取扱説明

正しく安全にお使いいただくため、必ずお読みください。

使用方法

	⚠警告
	本体内部を点検する場合には、必ず電源を切ってください。 感電のおそれがあります。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	設置時および点検時、リセット操作時以外は、前扉、天板、逃し弁点検口を開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
	絶対に改造はしないでください。 火災や感電、やけど、漏水、ケガの原因となります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	排水時には熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

	⚠注意
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作、故障の原因となります。
	満水にしてから通電してください。 故障の原因となります。
	定期的にタンク内部を清掃してください。 水質が変化して、健康を害するおそれがあります。
	給水温度は規定の範囲内としてください。 故障や漏水の原因となります。
	貯湯温度が 80℃未満の場合は、やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	長期間使用しない場合は、タンクの水を抜いてください。 凍結してタンクが破損したり、水質が悪化するおそれがあります。
	定期的に逃し弁の動作を確認してください。 万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。
	給湯器本体に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、破損の原因となります。
	水道水以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
	水道水に添加物を混ぜないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。
	タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。 配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。

1. 使用前の準備と確認

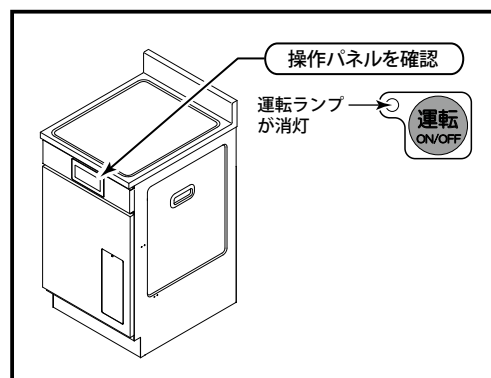
次のチェック内容を点検してください。

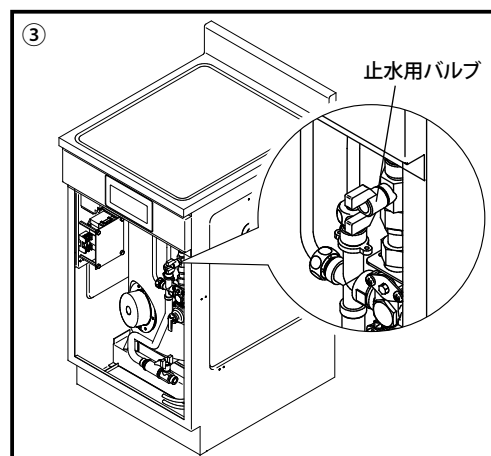
チェックリスト

項　目	チェック内容	チェック
本体まわり	近くにガス類や引火物がないですか？	□
	本体の上には物などを載せていませんか？	□
	逃し弁が吹き出していませんか？	□
	止水栓の取り付け位置が確認できますか？	□

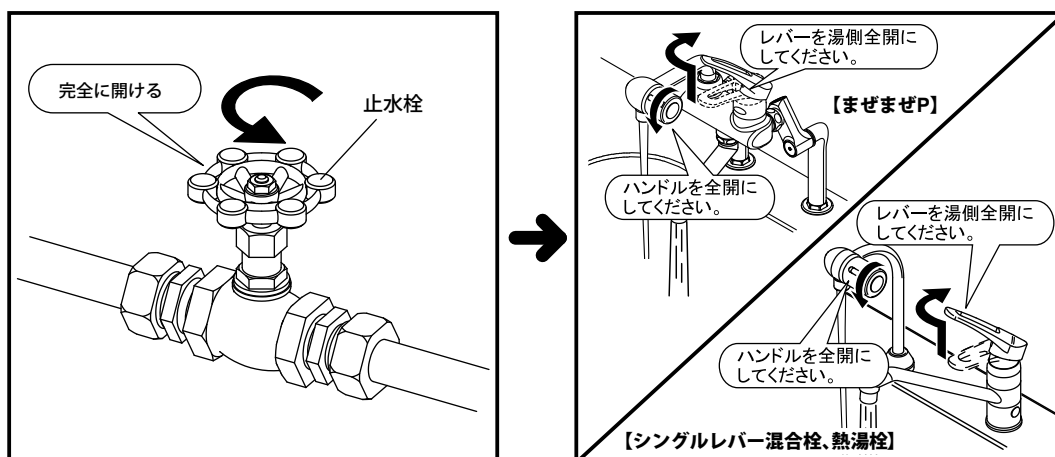
2. 給湯器に給水する

①操作パネルの運転スイッチがOFFになっていることを確認してください。（運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが消灯している状態です。）

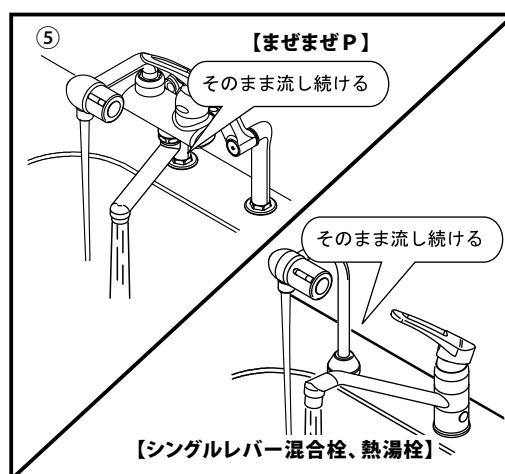
※ ON（運転ランプが点灯）になっている場合は、運転スイッチを3秒以上押してOFFにしてください。

②調理台の前扉を取り外してください。
（→ P.11『前扉の取り外し方』参照）

③止水用バルブが全開になっていることを確認してください。

使用方法

④ 給水接続配管一次側の止水栓を全開にしてから混合栓、熱湯栓の湯側を全開にし、水の量が安定するまで流し続けます。（給湯器のタンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。）

空気を含まない安定した水が混合水栓から出るまで、給水を続けてください。

注）図の各部品は一例で、お客様が手配されたものにより形状が異なります。図と異なる部品の取り扱いについては、ご購入先やメーカーにお問い合わせになるか、部品の取扱説明書をご覧ください。

⑤ タンク内が満水になり、水栓から出る水の量が安定したら、配管内の汚れを流し出すため、そのまましばらく流し続けてください。

⑥ しばらく流したら混合栓、熱湯栓を閉めてください。

3. 運転する

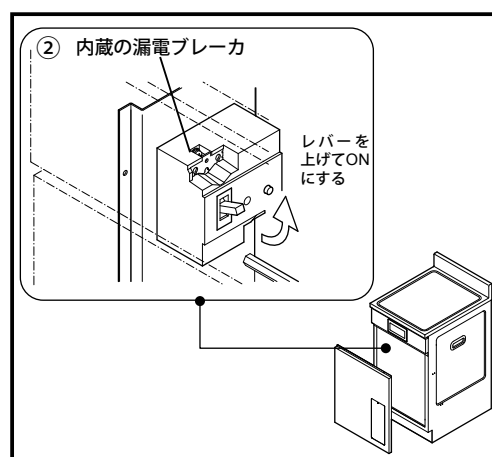
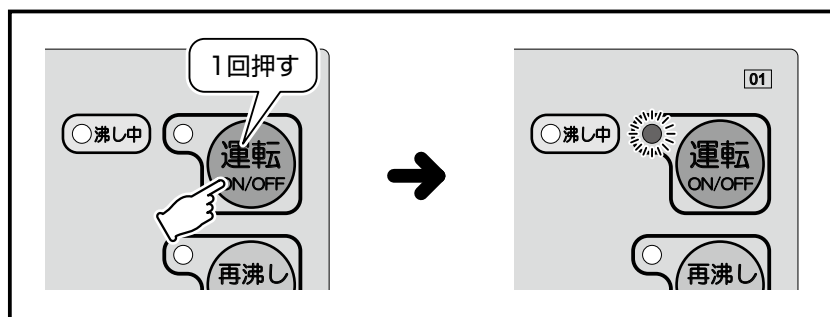
本製品は運転スイッチを押すと工場出荷時に設定された「おすすめプログラム」に従って自動でお湯を沸かします。

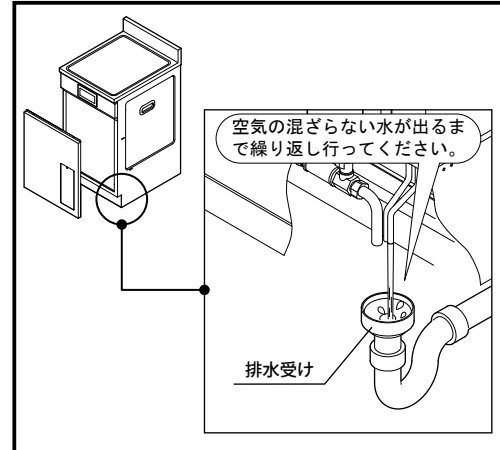
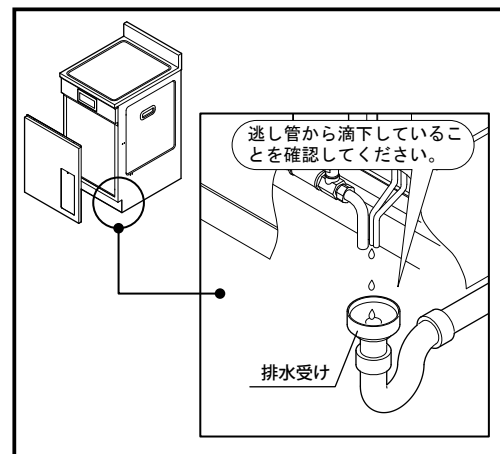
【おすすめプログラム設定内容】

設定内容	タイマー１	タイマー２
運転時間	6:30 ～ 18:30	6:30 ～ 12:30
運転曜日	月～金	設定なし

本書では基本的な使用方法のみを説明しておりますので、「おすすめプログラム」および操作パネルの詳しい操作方法は製品に付属の給湯コントローラー取扱説明書をご参照ください。

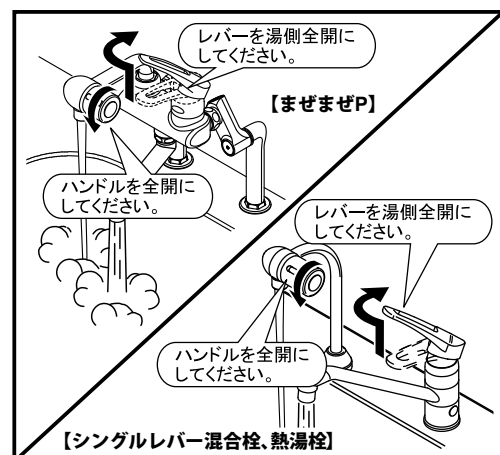
① 一次側の漏電ブレーカをONにしてください。

② 本体内蔵の漏電ブレーカをONにして電源を入れてください。

③ 操作パネルの運転スイッチを1回押してください。「ピッ」という操作音とともに自動運転を開始し、運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが点灯します。

④ 運転を開始すると、間欠エア抜き弁が1秒間作動し、タンク内に溜まった空気が逃し管より排出されます。

空気を完全に抜くために、運転スイッチを3秒以上押して自動運転をOFFにします。
5秒以上待ってから再び自動運転をONにします。逃し管から空気の混ざらない水が排出され、止まることを確認できるまでこれを繰り返してください。(4 ～ 5回)

⑤ 沸かし上げ中に、逃し管から水が滴下しているかどうか確認してください。確認出来たら設定温度に沸き上がるまでお待ちください。(沸かし上げ時間→ P.28『沸き上がり時間の目安』参照。)

⑥ お湯が沸き上がった後混合栓、熱湯栓の湯側を開いてお湯が出れば、運転は正常です。確認後は混合栓、熱湯栓を閉め、前扉を取り付けてください。

※ **混合湯、熱湯を同時に出す場合はP.28『ワンポイント』をご確認ください。**

注意

確認の際には、熱湯にご注意ください。
やけどのおそれがあります。

沸き上がり時間の目安

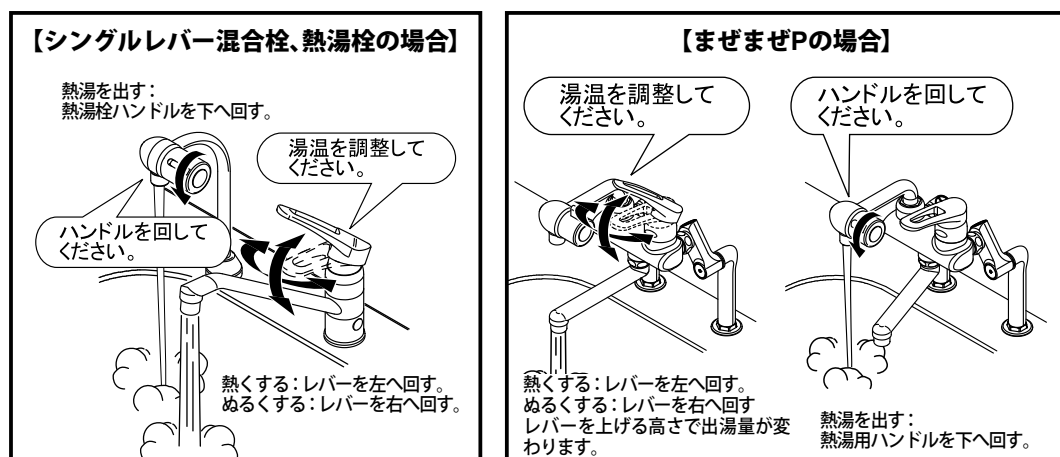
項目 / 型番	定格電圧	貯湯量(リットル)	標準ヒーター容量(kW)	沸き上がり時間※1 給水温 5℃	15℃	25℃	使用範囲の目安(人)※2
ES-50DWUB-LC	単相 200 V	50	3.1	102分	91分	79分	約 400
ES-80DWUB-LC		80		163分	145分	127分	〃 640

※1: 沸き上がり時間の算出：沸き上がり温度 95℃の場合。
※2: 使用範囲の目安：飲用可能温度を80℃とし、100cc/杯として算出。

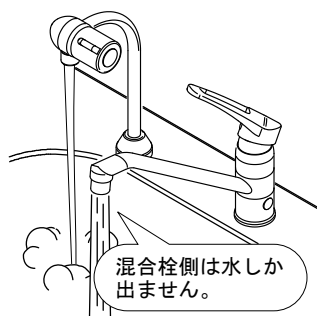
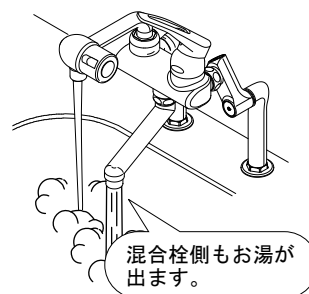
4. 出湯する

設定温度までお湯が沸き上がったら、混合栓または熱湯栓を開いて出湯してください。混合栓は湯温を調整しながらお使いください。(現在湯温は操作パネルにデジタル表示されています。)

【シングルレバー混合栓、熱湯栓の場合】

【まぜまぜPの場合】

注) 図は一例で、お客様が手配されたものにより形状が異なります。図と異なる混合水栓または熱湯栓の取り扱いについては、ご購入先やメーカーにお問い合わせになるか、水栓の取扱説明書をご覧ください。

ワンポイント P

混合湯、熱湯を同時に出す場合

○シングルレバー混合栓・熱湯栓をご使用の場合は…
熱湯栓を全開にすると、**熱湯優先となっているため混合栓からは水しか出ません。**

○まぜまぜPをご使用の場合は…
混合栓、熱湯栓両方からお湯が出ますが、共に出湯量は少なくなります。

長期間使用しないときは（排水の方法）

⚠警告

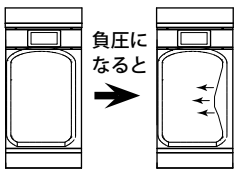
逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。
やけどのおそれがあります。

排水時には熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。
やけどのおそれがあります。

⚠注意

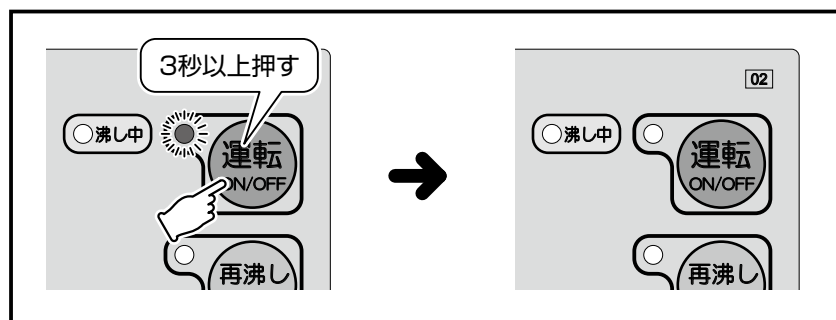
長期間使用しない場合は、タンクの水を抜いてください。
凍結してタンクが破損したり、水質が悪化するおそれがあります。

タンクを満水にしてから通電してください。
故障の原因となります。

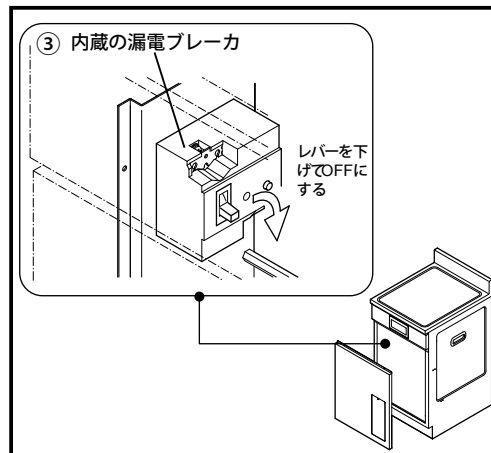
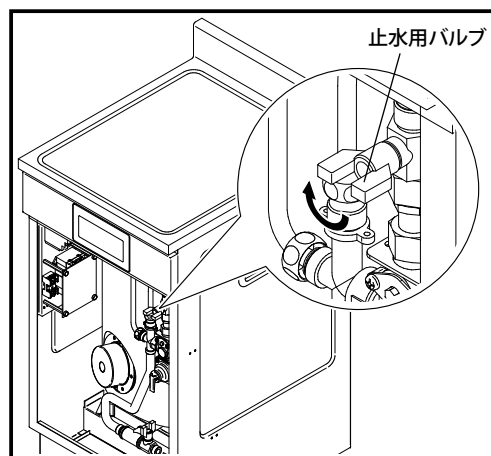
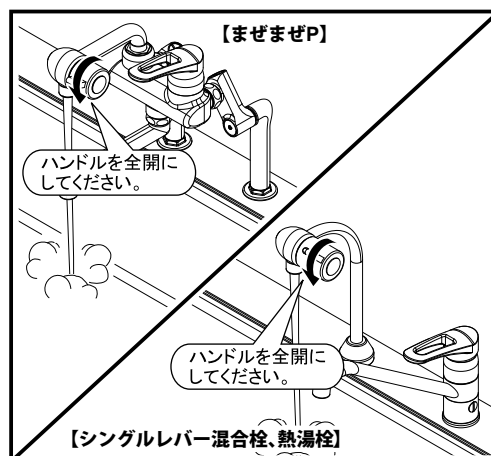
タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。
やけどしたり、配管の破損により漏水するおそれがあります。

長期にわたって給湯器をご使用にならない場合には水質劣化を防ぐため、また、負圧事故によるタンクの破損を防ぐため、タンク内のお湯を必ず抜いてください。

負圧とは？
タンク内の圧力が大気圧を下回った状態で、断水中や給水量が少ない状態で排水を行ったときに発生します。

負圧になるとタンク内の圧力が低くなり 、右図のようにタンクがへこんで破損してしまいます。

① 運転スイッチを3秒以上押してOFFにしてください。 自動運転を停止すると運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが消灯します。

② 調理台の前扉を取り外してください。（前扉の外し方→ P.11『前扉の取り外し方』参照。）

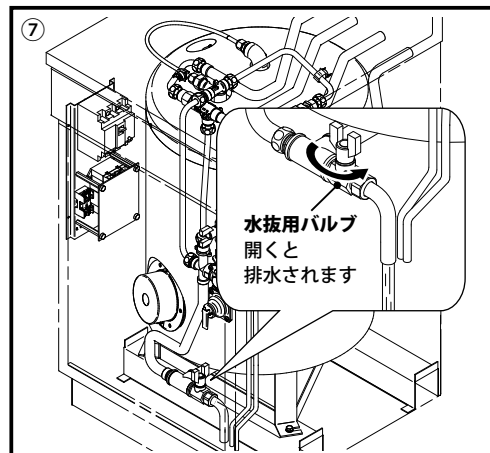
③ 本体内蔵の漏電ブレーカをOFFにしてください。

④ 一次側の漏電ブレーカをOFFにしてください。

⑤ 混合水栓の湯側を開け出湯を行います。排水管保護のため、お湯の温度を調整しぬるい温度で出湯を行ってください。**タンク内が完全に水になるまで出し切ったら**、止水用バルブを完全に閉めます。

⑥ 給湯用ハンドルを全開にしてください。

長期間使用しないときは（排水の方法）

⑦ 本体内部にある水抜用バルブを開いて排水してください。

⑧ 排水後は給湯用ハンドルを閉め、必ず水抜用バルブを閉めてください。

⑨ 最後に前扉を取り付けてください。

※上記の方法で水が抜けにくい場合は、弊社フロント課までお問い合わせください。

お願い

長期間使用しない場合は本体内蔵の漏電ブレーカを OFF にしてください。

タンクが空のときには運転スイッチを ON にしないでください。
故障の原因となります。

長期間使用しない場合はタンクの水を抜いてください。
凍結してタンクが破損したり、水質が悪化するおそれがあります。

お手入れの方法

<table>
<tr><th colspan="2">⚠警告</th></tr>
<tr><td></td><td>本体内部を点検する場合には、必ず電源を切ってください。
感電のおそれがあります。</td></tr>
<tr><td></td><td>設置時および点検時、リセット操作時以外は、前扉、天板を開けないでください。
感電、やけどのおそれがあります。</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td>給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。
やけどのおそれがあります。</td></tr>
<tr><td>逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。
やけどのおそれがあります。</td></tr>
<tr><td>排水時には熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。
やけどのおそれがあります。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">⚠注意</th></tr>
<tr><td></td><td>点検する際は、十分にお湯を冷ましてから点検を行ってください。
やけどのおそれがあります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>給湯器本体に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。
落ちてケガをしたり、破損の原因となります。</td></tr>
<tr><td>タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。
配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。</td></tr>
</table>

保守点検項目を実施の目安

<table>
<tr><th>点 検 項 目</th><th>点　検　内　容</th><th>点検の目安</th></tr>
<tr><td>管理技術者の方のみ
電圧の測定</td><td>定格電圧の±10％の範囲で使用されていることを確認してください。過電圧はヒーター断線の原因となります。また低電圧の場合は給湯器の能力が低下します。</td><td rowspan="6">1回／月</td></tr>
<tr><td>管理技術者の方のみ
電流値の測定</td><td>定格電流の±10％の範囲で使用されていることを確認してください。給湯器の使用開始時と再使用時には特にご注意ください。</td></tr>
<tr><td>管理技術者の方のみ
ヒーター絶縁抵抗測定</td><td>絶縁抵抗計（500Vメガー）で測定し、1MΩ以上あることを確認してください。
※破損するので操作回路には絶縁抵抗測定をしないでください。</td></tr>
<tr><td>漏電ブレーカの作動</td><td>内蔵の漏電ブレーカにあるテストボタンを押して漏電ブレーカの動作を確認してください。確認後は漏電ブレーカのレバーを完全に下げ、一度 OFFにしてから、ONにしてください。（P.18『試運転を行う』の図を参照。）</td></tr>
<tr><td>重　要
逃し弁の動作点検</td><td>逃し弁用の逃し管から常時水が出ていないか確認してください。（P.33『逃し弁の動作確認』参照。）逃し管から勢いよく水が出ている場合は修理、交換が必要です。</td></tr>
<tr><td>重　要
間欠エア抜き弁の動作点検</td><td>間欠エア抜き弁用の逃し管から常時水が出ていないか確認してください。（P.35『間欠エア抜き弁の動作確認』参照。）
逃し管から常時水が出ている場合は修理、交換が必要です。</td></tr>
</table>

次ページに続く→

→前ページより

点 検 項 目	点　検　内　容	点検の目安
管理技術者の方のみ **ストレーナーの清掃**	ストレーナーにゴミが詰まっていないか確認してください。（P.39『ストレーナーの清掃』参照。）	日常
漏水全般についての点検	本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	1回／日
タンク内の清掃	給水栓および給湯栓を全開にして、タンク内の水を強制的に入れ替えてください。	1回／年

注）長期間ご使用にならない場合は凍結によるタンクの破損や水質変化防止のため、P.29『長期間使用しないときは（排水の方法）』をご参照の上、タンク内の湯を排水してください。

逃し弁の動作確認

⚠警告

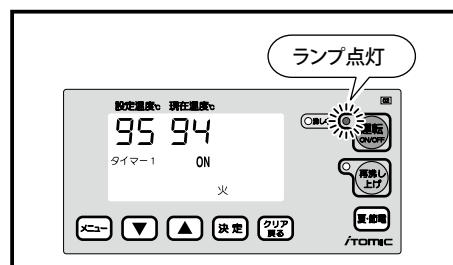
逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。
やけどのおそれがあります。

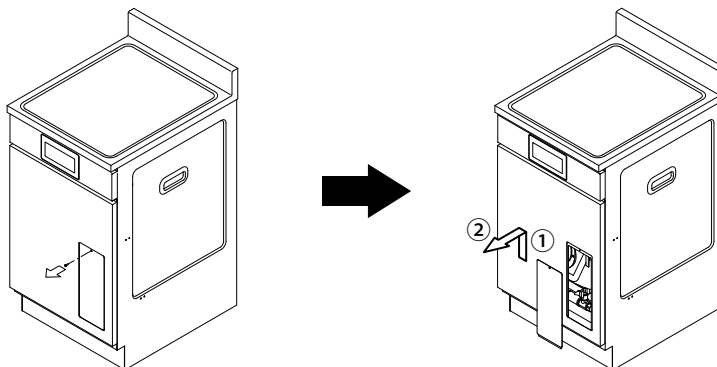
給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。
やけどのおそれがあります。

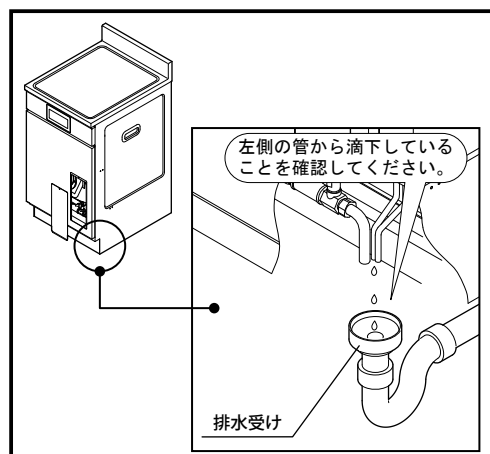
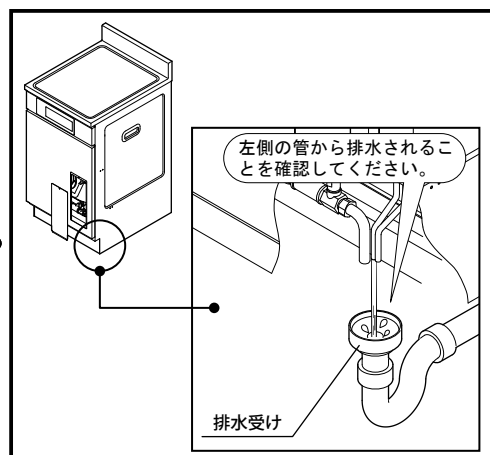
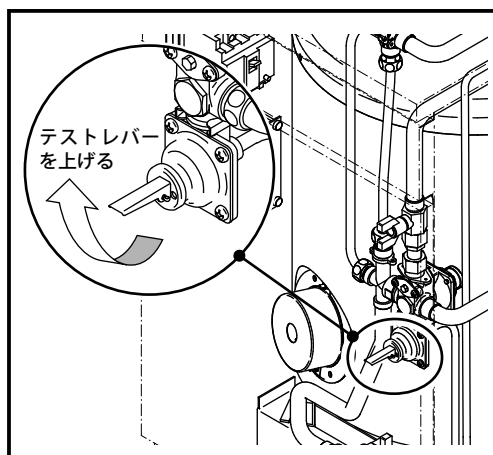
⚠注意

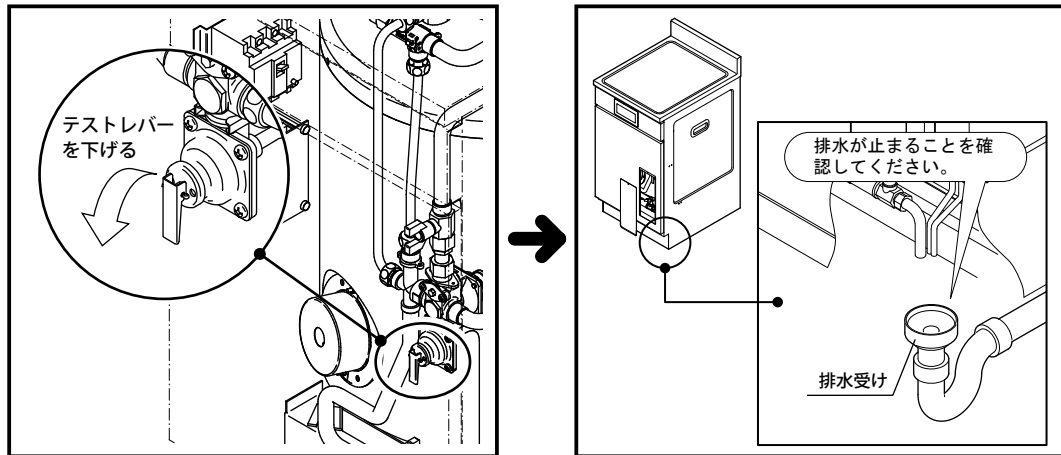
定期的に逃し弁の動作確認を行ってください。
万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。

逃し弁が作動しなくなるとタンクの破損や事故の原因となります。定期的に逃し弁の動作確認を行ってください。正常に動作しない場合は、弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社でご連絡ください。

① 操作パネルの運転ランプが点灯していることを確認してください。

② 逃し弁点検口を取り外してください。（→ P.34『逃し弁点検口の取り外し方』参照）

【逃し弁点検口の取り外し方】

③ 逃し弁テストレバーが下がっていること、逃し弁用の逃し管(2本の逃し管のうち左側)から間接排水が正常に行われていることを確認してください。滴下を確認できれば正常です。

※勢い良く水が出ている場合は修理、交換が必要です。

④ 次に逃し弁のテストレバーを上げて、逃し管からの排水を確認してください。(逃し弁用の逃し管からの排水を確認できれば正常です。)

⑤ 排水が確認できたら、逃し弁のテストレバーを下げて水が止まることを確認してください。

お願い

テストレバーは必ず元に戻してください。テストレバーを上げたままにすると、逃し弁から水が排出され続け、設定温度に沸かし上げることができません。

⑥ 逃し弁点検口を取り付けて終了です。

間欠エア抜き弁の動作確認

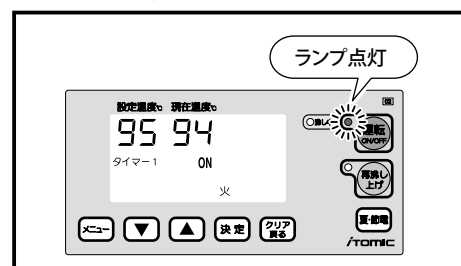
⚠警告

給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。
やけどのおそれがあります。

⚠注意

定期的に逃し弁の動作確認を行ってください。
万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。

間欠エア抜き弁が作動しなくなるとタンク内に溜まった空気や水蒸気が給湯の際に吹き出して、やけどをするおそれがあります。定期的に間欠エア抜き弁の動作確認を行ってください。

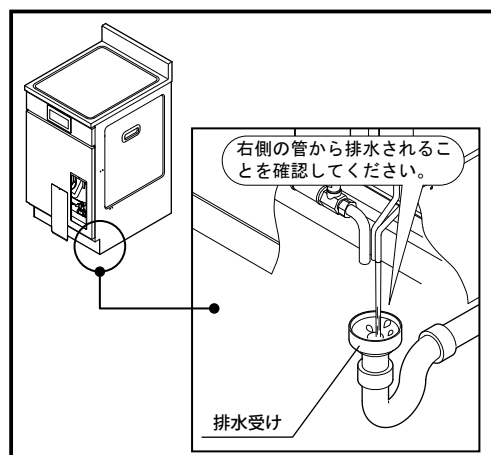
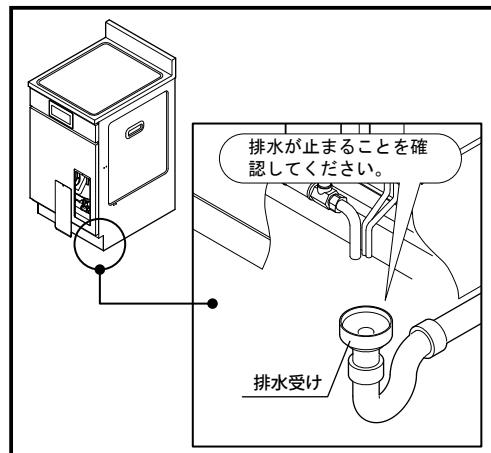
① 操作パネルの運転ランプが点灯していることを確認してください。

② 逃し弁点検口を取り外してください。
(→ P.34『逃し弁点検口の取り外し方』参照)

③ 逃し弁テストレバーが下がっていること、間欠エア抜き用の逃し管(2本の逃し管のうち右側)からお湯が排出されていないことを確認してください。

間欠エア抜き弁は30分に1回作動し、タンク内に溜まった空気や水蒸気(45℃以下)を排出します。また運転ランプが点灯しているときは、左側の逃し弁用の逃し管から膨張水が排出されます。

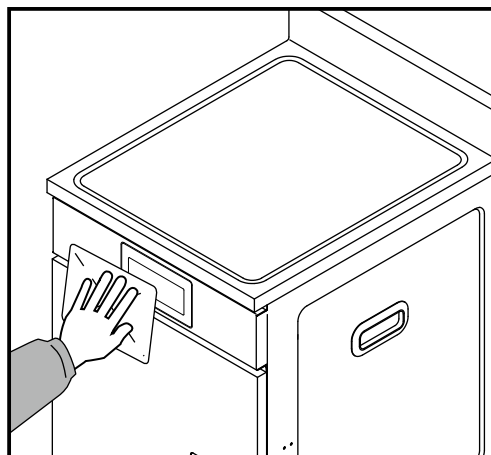
※勢い良く水が出ている場合は修理、交換が必要です。

④ 運転スイッチを3秒以上押してOFFにしてください。5秒以上たってから再び運転スイッチをONにします。スイッチ ONと同時に間欠エア抜き弁が1秒間作動し、タンク内に溜まった空気と水蒸気(45℃以下)が間欠エア抜き弁用の逃し管より排出されます。排水を確認できれば正常です。

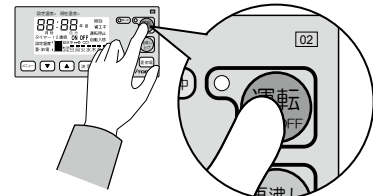
⑤ 逃し弁点検口を取り付けて終了です。

間欠エア抜き弁の内部にゴミが付着すると湯が流れ続ける場合があります。そのような時は、運転スイッチもしくは自動運転のON ／ OFF 操作を1 ～ 2回 ※ 繰り返してみてください。それでも流れ続ける場合は裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社にご依頼ください。

※過度にON ／ OFF 操作を行うと故障の原因となりますのでご注意ください。

外装のお手入れ

水に浸して固く絞った布で、汚れがひどいときは適量に薄めた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。薬品やクレンザーなどは使用しないでください。

こんなときは

ブザーを止めるには

ブザーが鳴った場合には運転スイッチを押してください。

給湯器が正しく運転しない場合や不調な際の修理ご依頼の前にご確認ください。

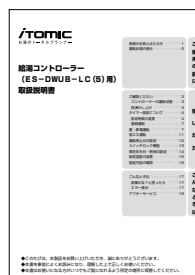
状　況	ご確認ください	対処方法
水もお湯も出ない または 出が悪い	断水ではありませんか？	断水中は使用できませんので、断水が終了するまでお待ちください。断水が終了したあと、お湯が濁っている場合には、濁りがなくなるまで出し続けてください。
	止水栓が閉じていませんか？	閉じている場合は開いてください。
	配管に取り付けられているストレーナーが詰まっていませんか？	ストレーナーの清掃を行ってください。→手順P.39『ストレーナーの清掃』参照。
	給水圧力が低すぎませんか？	給水圧力は0.1MPa以上必要です。 ⇒給水圧力が低い場合は管理技術者の方へご相談ください。
	配管が凍結していませんか？	配管内が凍結するとお湯が出ません。凍結防止策を施してください。 ⇒凍結防止策については、管理技術者の方へご相談ください。
	給水量が不足していませんか？	止水栓が閉じていたら開いてください。 減圧弁およびストレーナーの清掃を定期的に行っていない場合、ゴミ詰まり等が考えられます。 ⇒清掃については、管理技術者の方へご相談ください。
	混合水栓、熱湯栓がつまっていませんか？	混合水栓、熱湯栓のフィルターを清掃してください。 ⇒管理技術者の方へご相談ください。
湯温が低い または 沸き上がり時間が長すぎる	お湯を使用した直後ではありませんか？	瞬間式ではありませんので沸き上がるまで時間がかかります。
	逃し弁は正常ですか？湯が逃し管から出続けてませんか？	通電時、逃し管からポタポタ出るのは正常ですが常時吹き出しているのは故障です。ゴミがかんでいたり減圧弁の故障も考えられます。正常に動作していない場合は、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。
	水温が低くありませんか？	秋から冬にかけて水温が急激に下がるため、沸き上がり時間が長くなります。→ P.28『沸き上がり時間の目安』参照
混合給湯口から非常に熱い湯が出る	給湯器の自動混合弁が故障していませんか？	混合給湯口からの給湯温度は最高約 50℃です。それ以上の温度になっている場合は直ちに使用を中止し、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。

状　況	ご確認ください	対処方法
湯が沸かない 湯にならない	停電ではありませんか？	電気の復旧をお待ちください。
	漏電ブレーカがOFFになっていませんか？	漏電ブレーカ（一次側、内蔵の両方）をONにしてください。
	運転スイッチがOFFになっていませんか？	運転スイッチをONにしてください。
	タイマー運転の時間外ではありませんか？	必要に応じて臨時運転を行うか、タイマー設定を変更してください。
	ヒューズが切れていませんか？	ヒューズを取り替えてください。 ⇒管理技術者の方へご相談ください。
	電圧が誤っていませんか？	200Vの給湯器を100Vで使用することはできません。
	間欠エア抜き弁用の逃し管から水が出続けていませんか？	一度運転スイッチをOFFにし、水が出続けるか確認してください。 運転スイッチをOFFにしても水が出続けている場合は、運転スイッチを再びONにし、間欠エア抜き弁を動作させてください。 上記の対処で… **①水が止まった場合** 間欠エア抜き弁のゴミ噛みです。 管理技術者の方にリセット作業をご依頼ください。（P.41『リセットの方法②』参照） **②水が出続ける場合** 間欠エア抜き弁の故障です。 裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。
漏水している	本体からですか？	直ちに使用を中止して止水栓を閉め、その旨を裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。
	配管接続部からですか？	給水、給湯接続部の場合は締め直してください。
湯が臭い 湯が汚れている	設置直後ではありませんか？	設置直後などは工事の際切削油等が流入することがありますので、水をしばらく出し続けてください。
	長期間の休止後ではないですか？または断水直後ではないですか？	休止後は水の汚れや配管内の錆が出ることがあります。水栓から水を出し続けてタンク内の水を入れ替えてください。

その他の不具合およびエラーメッセージについて

その他の不具合および操作パネルに表示されているアラームについては、製品に付属の給湯コントローラー取扱説明書をご参照ください。

それでも症状が改善されない場合は、P.42の故障状況シートをFAXいただくか、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。

【給湯コントローラー取扱説明書】

ストレーナーの清掃

管理技術者の方のみ

⚠警告

給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。
やけどのおそれがあります。

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

ストレーナーにゴミが詰まると混合栓から出る湯の量が少なくなります。定期的に清掃を行ってください。

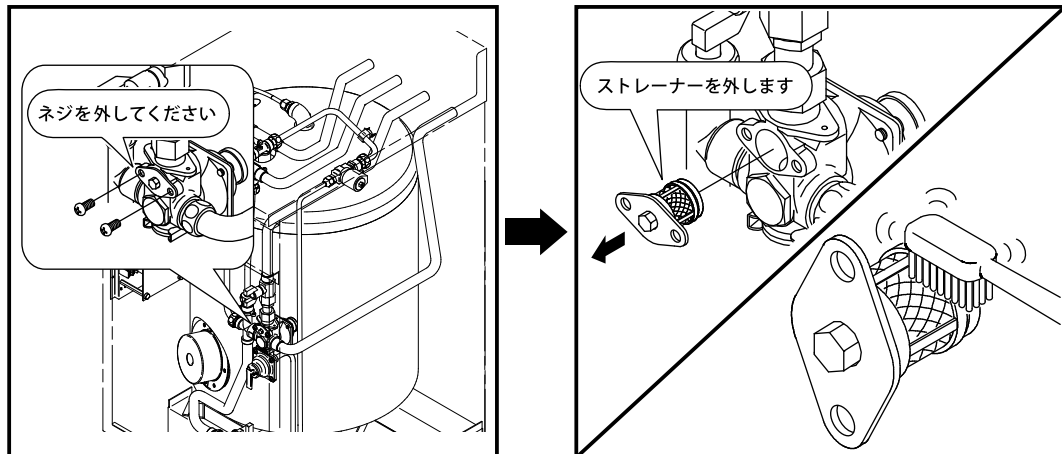
清掃前の準備

P.29『長期間使用しないときは（排水の方法）』をご参照の上、排水を行ってください。

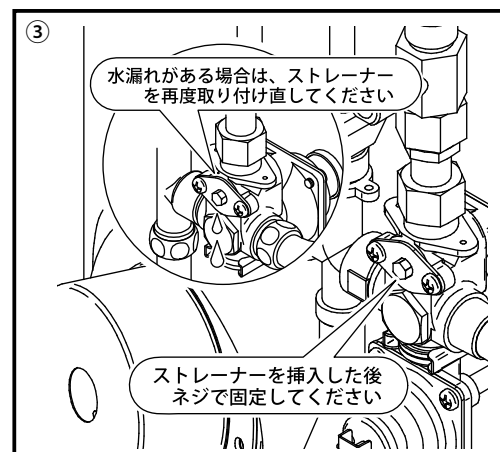
清掃を行う

① 調理台の前扉を取り外してください。（前扉の外し方→ P.11『前扉の取り外し方』参照。）

② ネジを外してストレーナーを引き抜き、フィルター部分に詰まったゴミをナイロンブラシなどで取り除きます。

注：ネジを外した時に少量の水が出ますので、水を受けるものをご用意ください。

③ストレーナーを取り付けた後、止水用バルブを元に戻し、給水を行ってください。

④漏水がないか確認してください。漏水があった場合は再度取り付け直してください。（給水方法はP.24『給湯器に給水する』参照）

⑤前扉を取り付けて終了です。

リセットの方法①

管理技術者の方のみ

警告

禁止	**設置時および点検時、リセット操作時以外は、前扉、天板、逃し弁点検口を開けないでください。** 感電、やけどのおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

ES-DWUBには「過昇温検出」（サーモスタットのトラブル時などに発生するオーバーヒート防止）装置が装備されています。何らかの理由で作動し運転が停止した場合には、下記の手順でリセット操作を行ってください。

①運転スイッチをOFFにしてください。

②機器内の漏電ブレーカ、および一次側の漏電ブレーカをOFFにしてください。

③原因を確認した上でネジ止めされている本器天板をゆっくり外し、十分に温度が下がってから給湯器内部の下図の場所にある過昇温リセットボタンを押してください。

リセットの方法②

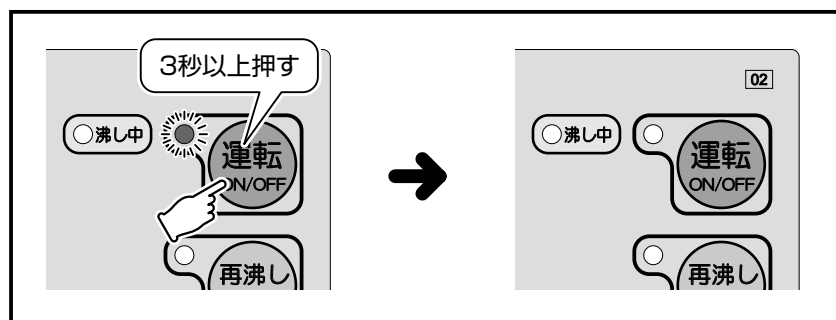
管理技術者の方のみ

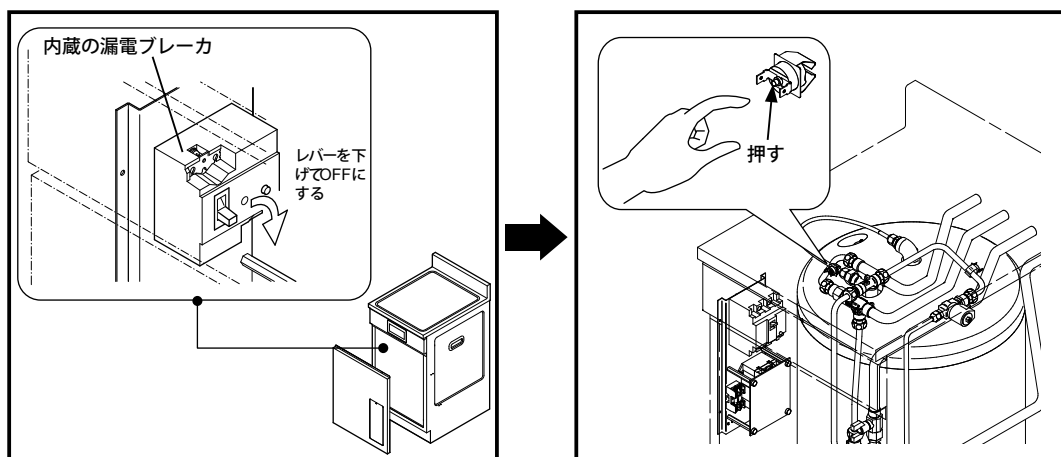
⚠警告

⃠	**設置時および点検時、リセット操作時以外は、前扉、天板、逃し弁点検口を開けないでください。** 感電、やけどのおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

ES-DWUBには「過昇温検出」(サーモスタットのトラブル時などに発生するオーバーヒート防止)装置が装備されています。何らかの理由で作動し運転が停止した場合には、下記の手順でリセット操作を行ってください。

①運転スイッチをOFFにしてください。

②機器内の漏電ブレーカ、および一次側の漏電ブレーカをOFFにしてください。

③原因を確認した上でネジ止めされている本器天板をゆっくり外し、十分に温度が下がってから給湯器内部の下図の場所にある過昇温リセットボタンを押してください。

アフターサービス

消耗品の定期交換について

下記表記の部品は定期的に交換が必要な消耗部品です。劣化による動作不良や漏水を防止するため定期的に交換してください。(下表参照) 交換(有償)、購入のご依頼は弊社フロント課もしくは裏表紙に記載の最寄りの地区販売会社にご依頼ください。

部品名	交換時期の目安	交換いただく理由
逃し弁	設置、交換日より 2～5年	長期間ご使用いただくことにより、経年劣化やスケール※による動作不良や漏水を起こす可能性があります。漏水が起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。(※水道水中のミネラル分が固着したもの。)
減圧弁		
間欠エア抜き弁		
ヒーター		
自動混合弁		

※上記以外でもパッキン類や電気部品交換が必要になる場合があります。使用頻度、環境によっては交換時期が早まる場合があります。

補修用性能部品について

本製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後7年です。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼になるときは、下の故障状況シートをコピーして必要事項をご記入いただき、FAXにてご送付ください。FAXをお使いでない場合は記入事項をお電話にてご連絡ください。
型番等は本体に貼られている保証票に印刷されておりますので、故障状況シートへ転記してください。

(株)日本イトミック フロント課 FAX 03-3621-2163
TEL 03-3621-2161
※もしくは裏表紙に記載の最寄り地区販売会社へご連絡ください。

故障状況シート			
貴社名		ご担当者名	
ご住所			
TEL		FAX	
製品型番	ES-　　DWUB-LC(4)		
電源、電力		製造番号	
設置場所		保証期限	
状態			

株式会社日本イトミック

本社・営業本部 ・・・・・・・・・・ **TEL：03（3621）2121（代）**
FAX：03（3621）2130
〒130-0002　東京都墨田区業平 5-11-3（イトミックビル）
ホームページ　http://www.itomic.co.jp/

《修理に関するお問い合わせ》

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

一般電話･公衆電話･携帯電話の場合（市内通話料金でご利用可能です）

0570-011039

【ナビダイヤルに関するご注意】
※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。
※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直しください。
※ＰＨＳ、ＩＰ電話からはご利用になれません。その場合には関東地区のお客様はフロント課、中部・近畿地区のお客様は西日本修理受付センター、その他の地域のお客様は最寄りの地区販売会社まで直接お電話ください。

フロント課 ・・・・・・・・・・ **TEL：03（3621）2161（代）**
FAX：03（3621）2163
西日本修理受付センター ・・・・・・ **TEL：052（228）0824**

《保守契約に関するご相談》

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社リニューアル課までご連絡ください。
また、部品のご注文はフロント課で承っています。

リニューアル課 ・・・・・・・・・・ **TEL：03（5860）4992（代）**
FAX：03（3621）2163

《担当エリアと営業所・地区販売会社》

北海道地区 ・・・・・・・・・・ **TEL:011（615）6681（代）**
（株）北海道イトミック　**FAX：011（615）7004**
〒063-0801　北海道札幌市西区二十四軒 1 条 5-1-10（ラポール 24 軒 2 号館）
担当エリア：北海道地区全域

東北・新潟地区 ・・・・・・・・・・ **TEL:022（773）6161（代）**
（株）東北イトミック　**FAX：022（773）6213**
〒981-3125　宮城県仙台市泉区みずほ台 4-3
担当エリア：青森県／岩手県／秋田県／山形県／宮城県／福島県／新潟県

関東地区 ・・・・・・・・・・ **TEL:03（3621）2121（代）**
（株）日本イトミック　**FAX：03（3621）2130**
〒130-0002　東京都墨田区業平 5-11-3（イトミックビル）
担当エリア：東京都／千葉県／埼玉県／茨城県／栃木県／群馬県／山梨県／神奈川県／静岡県

中部・北陸地区 ・・・・・・・・・・ **TEL:052（222）2561（代）**
（株）日本イトミック　中部営業所　**FAX：052（222）2559**
〒460-0002　愛知県名古屋市中区丸の内 1-4-12（アレックスビル 3F）
担当エリア：富山県／石川県／福井県／岐阜県／愛知県／三重県／長野県

近畿地区 ・・・・・・・・・・ **TEL:06（6226）0800（代）**
（株）日本イトミック　関西営業所　**FAX：06（6226）0802**
〒541-0048　大阪府大阪市中央区瓦町 3-4-7（KC ビル 9F）
担当エリア：大阪府／京都府／滋賀県／和歌山県／奈良県／兵庫県

中国・四国地区 ・・・・・・・・・・ **TEL:082（240）1361（代）**
（株）日本イトミック　中国営業所　**FAX：082（240）1363**
〒730-0051　広島県広島市中区大手町 1-7-12（徳永ビル）
担当エリア：鳥取県／島根県／岡山県／広島県／山口県／香川県／徳島県／愛媛県／高知県

九州・沖縄地区 ・・・・・・・・・・ **TEL:092（481）3911（代）**
（株）九州イトミック　**FAX：092（481）3930**
〒812-0007　福岡県福岡市博多区東比恵 3-28-5
担当エリア：福岡県／佐賀県／長崎県／大分県／熊本県／宮崎県／鹿児島県／沖縄県

※本書に記載の内容は、製品の改良や仕様の変更などにより予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

この印刷物は、再生紙と植物油インクを使用しています。

DU00D13001-0

'13.04-3-1-0.3 Ⓘ